Plan news

プラン・ニュース［2014 Autumn］No.97



キーパーソンに聞く

増田明美さん

トーゴ女子サッカープロジェクト報告

国際ガールズ・デー特集号

ネパールから男の子と女の子が来日！

2014年世界ガールズ白書「パワーを手に入れるための道のり」

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

発行：公益財団法人プラン・ジャパン



パネリストは右から、プラン・ジャパン理事で児童労働や NGO・NPO について研究している長坂寿久氏、国連人口基金東京事務所長の佐崎淳子氏、プラン・ジャパン理事で関西学院大学客員教授の大崎麻子氏、ネパールから招へいされたナビンさんと（通訳者をはさんで）イスミタさん、進行役は城谷尚子職員

14:00 メインフォーラム「13歳で結婚するってどういうこと？」

映画の上映会、ワークショップが終わると、メイン会場でフォーラムがスタート。まず始めに夏休みに行われた読書感想文コンクール 2014 の入賞者の発表がありました。

続いて、今回のイベントに招へいされたネパールの若者、イスミタさんとナビンさんによるプレゼンテーション。児童労働や「早すぎる結婚」の問題に対するネパールでの活動を、自身の体験を交えて紹介してくれました。その後は、パネリストに佐崎氏、大崎氏、長坂氏を迎え、ネパールでの視察の状況や国連人口基金が把握する世界の「早すぎる結婚」の実情を紹介しながらトークセッション。長坂氏からは、「仕組みをつくっても政府は資金が足りず具体策がうてていないのが実情。NGO が実体的に施策を行っているので、継続的な支援が必要」との意見が出されました。



16:15

来場者全員で、女の子を応援するアクション「Raise Your Hand」で記念撮影

元気いっぱいのナビンさんと笑顔が素敵なイスミタさん。司会を務めた高校生の高橋さんと乾杯



16:30 交流会

フォーラムのあとは、ホワイエで交流会。ピンクのジュースで乾杯し、夏休み読書感想文コンクール 2014 の表彰式が行われました。サービス精神旺盛で、英語も堪能なナビンさんが得意な歌を披露するなど場を盛り上げてくれ、なごやかに歓談が行われました。

12:00 ワークショップ「Workshop for youths by youths ～13歳で結婚って幸せ？～」

学生を対象に行われたワークショップは、プラン・ジャパンの学生グループ G-SChooL が企画・運営を担当。前半は、ジックル村という架空の村を舞台にした「早すぎる結婚」のロールプレイ。後半は、グループに分かれてジックル村の子どもたちが義務教育を終了するまでを描いたスゴロクを参加者全員で体験。「生まれる国は選べないのに、出生登録もできない子どもがいるなんて衝撃でした」との感想が聞かれました。



主人公のアミールとその両親、夫、村人に扮して、「早すぎる結婚」のロールプレイ



サイコロで男女を決め、スゴロクをスタート。最初の関門は「出生登録」。登録ができないと小学校にあがることができません



無事に小学校に通えても「早すぎる結婚」をさせられることもあります



女の子は水汲みなどの家事も必須。実際に水汲みのバケツの重さを疑似体験

10月11日 第３回 国際ガールズ・デー in Japan

記念イベント

「13歳で結婚。14歳で出産。恋は、まだ知らない。」開催

プランの働きかけによって国連が制定した「国際ガールズ・デー」。3 回目の今年も、日本で、世界でさまざまなイベントやアクションが行われました。奇しくも前日の 10 日に、マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞が発表され、女の子の教育や、今回のテーマである「早すぎる結婚」の問題が大きく注目された 2 日間となりました。

会場撮影：金井塚太郎

10月11日（土）



上映会『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』『I AM A GIRL』

11 日のイベントは、映画上映会で幕開けしました。昨年の国際ガールズ・デーで上映され、たいへん好評をいただいている『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』と、新作の『I AM A GIRL』を続けて上映。途上国の女の子をとりまく問題を扱った映像に、大勢の来場者が真剣に見入っていました。

10月10日（金）

19:00 プレミア上映会『I AM A GIRL』

日本で初上映となった『I AM A GIRL』は、数々の賞に輝くオーストラリアの女性映画監督レベッカ・バリーが、６カ国６人の女の子の成長を描いたドキュメンタリー映画。会場となった青山学院大学本多記念国際会議場には、約 230 人の方が集まってくださいました。今回のイベントのためネパールから訪れた若者、イスミタさんとナビンさんも参加し、支援を呼びかけました。



i am a girl



メインフォーラムでは、代表者が作品を発表しました



ひとりひとりに表彰状が手渡されました



● 中学生の部
「最優秀賞」 若松さん （中学３年）
「優 秀 賞」 熊木さん （中学２年）
「特 別 賞」 福住さん （中学３年）
● 高校生の部
「最優秀賞」 伊藤さん （高校１年）
「優 秀 賞」 渡邊さん （高校１年）
「特 別 賞」 上野さん （高校２年）

夏休み読書感想文コンクール 2014 入賞者の表彰も行われました

中学生・高校生を対象とした夏休み読書感想文コンクールは、今年ノーベル平和賞を受賞したパキスタンのマララ・ユスフザイさん（17 歳）をはじめとする、途上国の女の子たちに関する本を課題図書に行われました。全国から送られてきた 397 件の応募作品は、プラン・ジャパンとガールスカウト関係者による一次・二次審査と、直木賞作家でプラン・ジャパンの支援者でもあるコンクール審査員長の角田光代さんの最終審査を経て、優秀作品が選ばれました。角田さんからは、「みなさんに、心から敬意を表したいと思います。ここに書かれたひとりひとりのささやかな思いが、世界をきっと変えていくのだと、読んでいて思うことが出来ました」との講評をいただきました。

ネパールから来日した２人の若者、　イスミタさんとナビンさんの活動の様子とスピーチをご紹介します。

Ismita イスミタさん（16 歳）

ネパールのスンサリ郡アウラバニ村在住。恥ずかしがり屋だったイスミタさん。スポンサーである伊藤さんご夫妻のスピーチのあと、自分から堂々と感謝の気持ちを話してくれました。



子どもクラブがくれた 私の目標は「早すぎる結婚」を 少しでもなくすこと

ナマステ！　私の名前はイスミタです。16 歳で、10 年生です。好きな科目は数学、家族はお母さんと弟、私の３人です。

2006 年にプランのチャイルドになりました。スポンサーが日本の人と知ってとてもうれしく、それ以来、日本に関心を持っています。

私はいま、地元の子どもクラブ長を務めています。友だちに連れられて初めて参加した日、クラブでは、「早すぎる結婚」反対のパレードについて話し合っていました。私はメンバーの積極的な様子に感心して、自分もそうなりたい！自分にもきっとできる！と思いました。

クラブに参加して、「早すぎる結婚」は女の子の人生にさまざまな悪影響を及ぼすことを知りました。第一に、まだ体が大人になっていないうちの妊娠や出産は危険で、女の子の生命を危険にさらします。それに、結婚したら学校をやめなければなりません。収入を得る方法を学べず、自立するのが難しくなります。また、多くの場合、夫の方がずっと年上なので、女の子は暴力の被害に遭いやすいのです。

「早すぎる結婚」はなぜ起こるのでしょうか？

まずそれには伝統や慣習があります。ヒンドゥの教えでは女の子は初潮の前に結婚させるべきと信じられています。またダウリーと呼ばれる花嫁の持参金は、年齢が上がるほど高くなるので親は娘が小さいうちに嫁がせたいのです。娘を早く嫁がせて扶養家族をひとりでも減らしたいこともあります。

私はネパールの子どもたちの状況をお知らせするためにここに来ました。「早すぎる結婚」を強いられる女の子たちが大勢います。女の子たちを守るため、私はこれからも子どもクラブ長として活動を続けていきます。



国際子どもの日に学校で子どもの権利について話すイスミタさん



フォーラムが始まる前に、駆けつけてくれた伊藤さんファミリーと記念撮影



交流会では日本の女の子とも意見交換。やさしいほほえみをいつも絶やしません



子どもクラブで、早すぎる結婚防止の為の啓発劇をするナビンさん



壇上で、得意の歌を披露するナビンさん。将来の夢は歌手になることだそうです



交流会では積極的に来場者と乾杯！ 持ち前のリーダーシップを発揮していました

子どもクラブの活動を通じて 子どもの権利を守るのが 僕の役目

こんにちは。僕の名前はナビン。14 歳です。

新聞の売り子をするため学校をやめなければなりませんでしたが、「HOPE（希望）」というプロジェクトで学習支援を受け、奨学金を得て 2011 年に公式の学校の５年生として復学することができました。今は８年生で、82 人中３番目の成績です。地元の子どもクラブの副クラブ長を務めています。

プランの支援を受ける前は、僕は家計を助けるため路上で1日中働いていました。僕も家族も絶望の中にいました。ネパールにはそんな働く子どもたちがたくさんいます。

ある日、路上で働いていたとき、プラン・ネパールのスタッフに出会いました。子どもクラブやその活動について教えてくれて、僕も参加したくなりました。そしてプロジェクトの学習支援を受けることを勧められ、復学。子どもクラブの活動は現在も続けています。

クラブに参加してから、僕の人生は大きく変わりました。これまで知らなかったことをたくさん学びました。「早すぎる結婚」の問題もそのひとつです。「早すぎる結婚」がもたらす問題を知り、とてもショックを受け、みんなが「早すぎる結婚」をしないように子どもクラブでの活動をがんばろうと思いました。

僕たちは地域で、意識向上のためのさまざまなプログラムを実施しています。集会、路上演劇、署名運動、訪問などです。

継続的な日本の支援と、プラン・ネパールの活動、僕たちの活動によって、より多くの子どもたちの権利が守られ、教育を受けられるようになってきました。今後とも応援をよろしくお願いします。

Nabin ナビンさん（14 歳）

ネパールのマクワンプール郡ヘタウダ在住。日本の印象は、「大きなビルも、身体障がい者や子どもにやさしい造りになっていることに感動しました。日本の人たちは勤勉ですね」





再会を喜び合う伊藤さんご夫妻とイスミタさん

イスミタさんのスポンサー、 伊藤さんご夫妻も応援に駆けつけてくれました

2006 年にプランのチャイルドになったイスミタさんのスポンサーは、大阪府にお住まいの伊藤さんご夫妻です。すでにコミュニティ訪問を通してネパールでイスミタさんと会っていた伊藤さん、その訪問からわずか１カ月後に、偶然にも招へい者に選ばれたイスミタさんと、日本でうれしい再会を果たしました。壇上では、子どもクラブ長としてリーダーシップを発揮するイスミタさんを誇りに思う気持ちと、訪問の際にお茶を煎れてもてなしてくれたイスミタさんのやさしい一面をエピソードとして話してくださいました。

イスミタさんからは、「父親のいない貧しい家庭の女の子をここまで大事にしてくださってありがとうございます。日本にはお姉さんもいるし、お兄さんもいるし、そしてお父さんとお母さんにも会えて、とてもうれしかったです」と感謝の言葉がありました。



有村治子男女共同参画担当大臣を訪問。いっしょに Raise Your Hand



学校への移動中。地下鉄は初体験



読売新聞「顔」欄の取材を受けるイスミタさん



日本滞在最終日に漸くお休みが取れました。みんなで浅草寺へお参りに行きました



都立世田谷総合高校にて。授業後みんなで Raise Your Hand



お茶の水女子大学附属高等学校では、全校生徒の前でスピーチの他交流会に参加

日本滞在中は大忙し。 学校での交流や 大臣訪問など大活躍。

約１週間の滞在期間中、２つの高校での交流や男女共同参画担当大臣への表敬訪問、メディア取材の対応など、大活躍を見せたイスミタさんとナビンさん。子どもクラブでともにリーダーを務める二人は、元気いっぱいで役目を果たしてくれました。

国際ガールズ・デー *in the World*

国連でのアピール、恒例のピンキファイなど世界各国でアクションを行いました

世界各地でも、国際ガールズ・デーを祝うイベントが行われました。
プランが女の子たちと協力し合いながら進めたイベントの一部を紹介します。



● アメリカ

Raise Your Hand 国連へ提出

2012年9月から2年のときを経て世界中で約239万5,000人が、アクションに参加しました。プラン・インターナショナルCEOのナイジェル・チャップマンからユネスコ事務局長イリーナ・ボコバ氏に手渡しました。



● コロンビア

コロンビア議会で Raise Your Hand！

各地から集まった代表の女の子８人が、議会でジェンダー平等の推進を訴えました。



● フィリピン

カラー・ファン・ラン

色の付いた粉を浴びながら楽しく走り、人種や世代を超えて一体感を味わうイベントを行い、女の子たちの権利と質の高い教育の大切さを訴えました。



● バングラデシュ

ピンクのリキシャが町を走る

50台のリキシャをピンクに染め、早すぎる結婚防止と女の子の教育推進を訴えました。



● アメリカ

エンパイア・ステート・ビルをピンクにライトアップ

点灯式にはプランの若者も参加しました。



● ザンビア

政府・国際機関とイベントを開催

女の子たちの教育を妨げる慣習の撤廃を、女の子たち自らが訴えました。





10月11日に行われた結婚式は、集まったキャンペーン賛同者の手で阻止されました

ブログに掲載された、12歳のテアさんと夫となる37歳のゲイルさんの写真

世界中でニュースに！

プラン・ノルウェーの「早すぎる結婚」ブログ

プラン・ノルウェーが９月12日から始めた早すぎる結婚撲滅キャンペーンは、ノルウェー国内で大きな話題となっただけでなく、日本をはじめ世界各国のメディアに取り上げられました。

キャンペーンの手法はブログ。「テアのウェディングブログ」で綴られた12歳の女の子の「早すぎる結婚」へのストーリー（もちろんフィクション）は、ブログ読者の一部が警察や児童保護センターへ通報するなど大反響を呼びました。10月11日に行われた結婚式では教会前に約400人が集まり、児童婚の反対を呼びかけるデモを行いました。ウェブサイトで結婚式の様子を動画でご覧いただけます。
http://www.plan-japan.org/girl/news/141015_02.html

世界と日本におけるプランの主な活動記録　2014年6月〜

6/16〜26　10 days to act　女の子の教育支援強化を各国政府に訴える10日間



6/16 アフリカ子どもの日を皮切りに、アフリカの女の子たちが中心になって声をあげました。

6/18〜10/16　プラン・アカデミー第２期実施

プラン・ジャパンが主催する連続講座で、受講生はジェンダーについての学びを深め、広める活動に取り組みました。

6/20〜9/3　夏休み読書感想文コンクール2014「読んで世界に近づこう！」募集開始

詳細は２ページをご覧ください。

7/8　国連人口基金事務局次長 プラン・アカデミーで講演



アンネ・ビルギッテ アルブレクトセン氏が児童婚について講演をしました。

7/13　ワールドカップサッカー、優勝ゴールを決めたのはプラン支援者！



マリオ・ゲッツェ選手は、プランのスポンサーとしてのみならず、プラン・ドイツの広報大使としても協力しています。

Photo by Plan Germany

7/13　第19回 国際女性ビジネス会議に登壇

プログラム部山形職員が、「世界の現状を知って、変化を起こす！」というテーマの円卓会議に参加し、プラン・ジャパンが行ったウガンダ北部での南スーダンからの避難民への緊急支援について話しました。

7/22　第１回 ガールズ・サミット（ロンドン）に参加



イギリス政府がユニセフと共催、女性性器切除と早すぎる結婚の撤廃を国際社会に訴えました。プランの若者がイギリスとパキスタンから参加しました。

8/2　Girl Rising 上映会　日比谷

株式会社イーウーマンの後援により実施。

8/7　Girl Rising 上映会　盛岡

プラン盛岡の会とプラン・ジャパンが共催。他、各地の男女共同参画センターでも上映。

9/9　Hear Our Voices 発行



11カ国、7,000人のユース（12-16歳）の声を集め、直面している問題を広く集めた報告書。ウェブサイトで動画も紹介しています。http://www.plan-japan.org/girl/news/140909.html

10/4〜5　グローバルフェスタ2014

日比谷公園で行われる国内最大の国際協力支援のイベントに出展。来場者の多くにRaise Your Handに参加してもらいました。

10/10　マララ・ユスフザイさんノーベル平和賞受賞



女子教育の重要性を訴えるなど、プランと同じ目標に向かって活動しているマララさんの受賞を受け、プラン・ジャパンにもメディアからの取材が相次ぎました。

10/10　ジェンダーについての学びの本を出版　売り上げの一部はプラン・ジャパンに寄付されます



A5判　本文144ページ
合同出版

プラン・ジャパンのスタッフが執筆した書籍、『わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる―未来をうばわれる２億人の女の子たち』が、合同出版より発行されました。早すぎる結婚・妊娠や、児童労働など世界の女の子が直面する問題を描くほか、「男の子にとっての自由な生き方」や「日本の女の子が抱える問題」などについても章をさき、問題を「自分ごと」としてとらえることができる内容となっています。
http://www.plan-japan.org/girl/news/140930.html

キーパーソンに聞く｜スポーツジャーナリスト

増田明美さん

がんばっている人を応援したくなる。「スポーツの力」を感じました。

プラン・ジャパンの評議員として、またスポンサーのお一人としてご支援をいただいているスポーツジャーナリストの増田明美さん。2010年のラオスの幼児教育プロジェクトの視察に続いて、7月にはトーゴへ視察に行かれました。女の子の自尊心やリーダーシップを育むことを目的とした「女子サッカープロジェクト」の視察について伺いました。



カッセナ村で行われた親善試合の様子。審判も女の子が務める

――視察に行かれたトーゴの印象と視察の目的を教えてください。

増田明美さん（以下名前と敬称略）　トーゴは縦に細長い国で、南に首都ロメがあり、北へ行けば行くほど貧しい地域になるんですね。幹線道路を南から北へ向かったのですが、電気もない暮らしを見たときは、切なくなりましたね。ドイツの支援で建てられた、出産や産後のケアのための保健所があるのですが、冷蔵庫があるのに電気が通っていないために使えない。ワクチンも血清も保存できないので、毒蛇にかまれたときも対応できない。町の病院に行くしかないそうです。ラオスのときよりも貧富の差を感じました。

今回は、障がいのある子どもの支援プロジェクトと、女子サッカープロジェクトを視察しました。

トーゴの女子サッカープロジェクトは、2008年にスタートしているのですが、女子サッカーのレベルがどうなっているのかを見たかった、というのがひとつ。もうひとつは、どれだけの村人が応援してくれているのか、村の男性がどう変わっているかということですね。

プラン・トーゴの方に聞いたところ、最初は村の長老や保守的な男性たちは反対していたそうなんです。それがいまでは、長老自らが遠くの大会へ応援に行くまでになったそうです。視察した親善試合にも、半分以上の400人もの村人たちが集まり、想像以上の盛り上がりでした。

――親善試合の様子はいかがでしたか？

増田　カッセナ村で、カッセナとチャンバの女子サッカーチームが親善試合をしたのですが、どちらも全国で優勝経験がある強豪同士。ホームのカッセナのチームが勝ったんですが、決勝点が入ったときも、勝ったときも、盛り上がって踊り出したのは男性でした。

スポーツというのは、自然に男性が女性を応援できる。そして、応援する人も楽しく元気になれる。スポーツには、そういうわかりやすい力があると実感しました。選手たちも最初は男の子かと思ったくらい、立派な体格をしているのですが、身体を見れば、努力して鍛えてきた、つむいだ時間がひと目でわかります。

なるほど、サッカーだから、ここまでうまくいくんだな、と思いました。西アフリカは、サッカーが強い国が多いんですね。近隣国のガーナもコートジボワールもサッカーの強国です。みんながサッカーが大好きだから、女の子がサッカーをするとなると、みんなで応援してくれるのでしょう。

6年でこのレベルになっているというのは、とても順調だと思います。いい指導者がついて、本格的にやり始めたら、なでしこジャパンの強敵になると感じました。

――ほかに印象に残ったことはありましたか？

増田　このプロジェクトでは、選手やコーチはもちろん、女の子の審判やリポーターも育成しているのですが、ハーフタイムには、控えの選手とリポーターが一緒になって寸劇を披露したんですね。テーマは「人身売買にあわないように」という重いものなんですが、とても上手で、コミカルで面白いんです。重要なメッセージをコミカルに伝えているので、子どもたちも真剣に見ていました。人の集まるところで啓発活動をすることも素晴らしいなと思いました。

試合のあとで選手に「サッカーをしていて何が変わった？」と聞くと、「大きな声で話せるようになった」「親が意見を聞いてくれるようになった」。将来の夢を聞くと、一人は、「将来はサッカー選手になりたい」、一人は「ジャーナリストになりたい」と話してくれました。

その言葉を聞いて、アスリートとしてだけでなく、地域や国のリーダーとして女性を教育する、意識改革をしていくという部分にも成果が現れているな、と思いました。

女性の活用というのは、スポーツでも社会参加でも、その国の成長のバロメーターだと思います。日本でも、人見絹江さんが陸上で活躍してから変化しました。今回、ポテンシャルが高い女性の選手たちを見て、すごく可能性を感じました。とても気持ちがいい視察でしたよ。

――最後に、プラン・ニュースの読者の方にひとことお願いします。

増田　人々の意識を変えるというのが、いかに地道な作業かということを痛感しました。たとえば学校を建てることも大事ですが、そのあとコツコツと啓発活動を続けることがいかに大事かということ。

プランはプロジェクトで、地域の方たちと一緒にその活動を続けています。この地道さには本当に頭が下がりますね。私もスポンサーとして支援をさせていただいていますが、それはこの活動にいかされているんだなと実感しました。この経験を、できるだけ多くの方にお伝えしていきたいと思っています。



ハーフタイムに行われた寸劇。
子どもたちが真剣に観ている



勝利したカッセナのチームには
増田さんがトロフィーを授与

Profile

ますだ・あけみ
1964年、千葉県生まれ。成田高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立。1984年のロス五輪に出場。1992年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録2回更新という記録を残す。現在はスポーツジャーナリストとして活躍中。大阪芸術大学教授。2008年10月、プラン・ジャパンの評議員に就任。

経済的に自立するための学びで女の子のエンパワーメントを実現する

～プラン・シエラレオネの「ガールパワー！：女の子の貯蓄貸付組合」～

西アフリカの小国シエラレオネは、世界で最も貧しい国のひとつです。子どもたち、特に女の子はなかなか学校にも通えず、早すぎる結婚を強いられたり、シングルマザーになって経済的にさらに追い込まれたりするケースが多く起こっています。こうした状況を変えるためには、女の子自身が経済的に自立できるようになることが重要。そこでプランはBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの一環として、女の子たちが貯蓄や経済の仕組みなどを学び、社会参加していくための活動を始めました。



女の子の経済的自立を支援し早すぎる結婚に歯止めをかける

シエラレオネでは、伝統的に男性がお金を管理し、経済力をもたない女性・女の子の多くが早すぎる結婚を強いられてきました。女の子の約3割が15歳未満で結婚し、そのうち4割以上が18歳までに最初の子どもを出産。しかも全女性の7割以上に、何らかの理由でシングルマザーとなり、経済的にさらに追い込まれる時期があるといいます。また家庭や学校をはじめ社会全体に、女の子に対する暴力や性的虐待などの人権侵害が横行している点も大きな問題。こうした状況から女の子たちはほとんど教育を受けられず、健康を脅かされることも多く、将来に希望が持てない状態が続いてきたのです。

プラン・シエラレオネは2011年10月、問題が最も顕著な西部の農村地域で、「ガールパワー！：女の子の貯蓄貸付組合」をスタートさせました。その目的は、女の子たちが早い時期に経済的自立のための知識と方法を学ぶことで自らの権利を知り、それを行使できる社会を作ること。また、そうした活動が地域の人々の女の子に対する見方を変え、前述のような問題を解決へと導くことです。

リーダーシップをも身につけた女の子たちが未来を切り開く！

プロジェクトの活動は、7～14歳の女の子たちを対象に、15人程度で構成される貯蓄貸付組合グループを作るところから始まります。貯蓄貸付組合のメンバーとなった女の子たちは、お金を貯める方法やそれを安全に管理する方法、経済の基礎知識などを学習します。また基本的な人権や問題を解決する方法、コミュニケーション能力、リーダーシップといったライフスキル（生活技能）も学んでいきます。そして毎週1回ミーティングを行い、実際にみんなが貯めたお金を持ち寄ってその使い道を相談したり、プロジェクトの代表として、同年代のほかの子どもたちや地域の人たちの意識啓発を行ったりします。

プロジェクトが始まって約3年、その成果も少しずつ現れてきました。参加者のひとり、12歳のロザリンは次のように述べています。「以前、女の子たちは無理やり結婚させられていました。お金を持っているのは男の人だけだったからです。でも今、私たちは自分でお金を貯めて、自分でビジネスを始めたり学費を払ったりする方法を学んでいます。だから男の子たちも、私たちに何かを強制することはできないのです！」。



シエラレオネ
Republic of Sierra Leone

シエラレオネ西部の農村地域には、2014年5月現在、240の女の子の貯蓄貸付組合グループが作られ、7～14歳の女の子たち3,114人が参加しています。2016年12月のプロジェクト終了期限までにさらに120の組合を作り、合計5,000人の女の子たちに参加してもらうことを目指しています。





プロジェクト参加者の声

● ダニカさん（13歳）／
ソンゴの貯蓄貸付組合のリーダー

私は1年前に貯蓄貸付組合のプロジェクトに参加し、今ではグループのリーダーです。私のお母さんやおばあちゃんは読み書きができないので、お金を貯めることができませんでした。でも私が教育を受けて、今ではそれを2人に教えています。プロジェクトに参加する前の私はとてもシャイで、人前で話すこともできませんでした。でも今では自信があるので、大勢の人の前でもちゃんと話せます。以前は、大人になったらシェフになりたかったけど、今は大統領になりたいです！



貯蓄貸付組合の活動で
こんな成果がありました！

ケース1
母娘が力を合わせて組合を運営！

貯蓄貸付組合プロジェクトで学ぶダニカさん（下コラム参照）たちの姿に感銘を受けた母親たちは、娘たちから積極的に学び、お金を貯めるのをサポートするようになりました。女の子たちは毎週500レオネ（約14円）ずつ持ち寄ります。そして誰かが学費や医療費としてお金が必要になると、母娘が集まり、ローンを認めるかどうか話し合って決定しています。

ケース2
母親たちが本格的な組合を結成！

15歳のアイシャさんは貯蓄貸付組合グループに参加し、リーダーとなりました。1年後、組合で貯めたお金を母親に渡し、彼女の学費と家業への投資に使うことができました。母親は「自分の権利のために毅然と立ち上がった娘を誇らしく思います」と語り、自身も仲間と協力して大人版貯蓄貸付組合を結成。今では10人のメンバーが毎週1万レオネ（約280円）ずつ持ち寄り、それを異なるメンバーに貸し付けるという活動を続けています。



アイシャの母、トクンボさん

プロジェクト担当者からひとこと
プロジェクトの成功が女の子の権利保護につながります

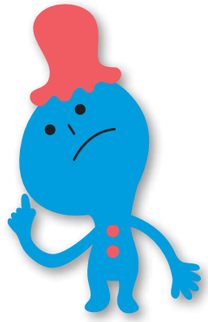


モリワイス職員
● プラン・シエラレオネ
「女の子の貯蓄貸付組合」
プロジェクト担当

このプロジェクトでいちばん大切なことは、実は女の子たちの権利を守ること。女の子たちは組合グループで学んだことを両親に伝え、議論を交わしています。その結果、親から暴力を受けたり、無視されたりすることが減ってきました。また意識啓発活動等のおかげで、10代の女の子の妊娠も確実に減ってきました。担当者として大きな手ごたえを感じています。

※シエラレオネでは現在、エボラ出血熱の影響により、現行プロジェクトの活動が停止されています。プランはこれまでの活動で積み重ねてきた連携を活かし、エボラ出血熱の感染拡大防止に取り組んでいます。

女の子への暴力をなくすにはどうしたらいい?



国連が制定した「国際ガールズ・デー」2014年のテーマは、「女性への暴力の撲滅」。国連やNGOが女の子、女性を支援する取り組みを世界各地で行っている一方、女性への暴力がその成果を打ち消してしまうという状況があります。そもそも暴力は、人権に対する重大な侵害。この問題を解決するにはどうしたらいいのか、プラニーとともに学びましょう。

イラスト／西島尚美

Q1 女の子に対する暴力の実態はどうなっている?



ある調査によるとウガンダでは85%以上、ケニアでは60%近くの女の子が親などから身体的暴力を受けています。一方エルサルバドルでは約20%の女の子たちが性的嫌がらせを受け*1、コートジボワールではおよそ8人に1人の女性が「初めての性体験は強要されたもの」と告白*2。モザンビークでの調査では、70%の女の子が「生徒に性交渉を要求した教師を知っている」と回答しています*1。また、早すぎる結婚の慣習が残る地域では、かなり年上の男性に嫁がされるため、圧倒的優位に立つ男性からの暴力の被害に遭うことが日常茶飯事。女の子たちは家庭や学校、地域社会といった日常生活の中で、さまざまな暴力の被害に遭う危険にさらされているのです。



プランの調査に参加したウガンダの女の子たち

Q2 紛争や災害に見舞われた女の子の状況は?



現在、紛争下に暮らす女の子は約2億人と推定されています。また21世紀は「災害の世紀」と呼ばれるほど自然災害が多く、避難生活を強いられる女の子の数も増加しています。こうした状況下に置かれた女の子たちは、通常の生活よりもさらに多くの危険にさらされます。たとえば世界に30万人いるといわれる「子ども兵士」のうち、実に約10万人が女の子。彼女たちは兵士として戦わされるだけでなく、「兵士の妻」として性的に搾取されることも多いのです。また、紛争や災害によって混乱や貧困が加速すると、身体的・性的暴力のターゲットになる危険が大幅に増加。家族の負担を減らすために早すぎる結婚を強制されたり、収入のために売春せざるを得なくなったりするケースも多発します。



紛争から逃れて避難民キャンプで暮らす南スーダンの女の子

Q3 暴力の被害に遭った女の子に降りかかる悲劇とは?

暴力を受けた女の子たちは身体的・心理的に甚大なダメージを受け、最悪の場合死に至ることもあります。また性暴力の場合、望まない妊娠・出産や中絶を強いられたり、HIV／エイズなどの性感染症にかかってしまったりすることもあります。教育を受ける機会を逸した女の子たちは、経済的自立への道も閉ざされます。また、被害者であるにも関わらず、コミュニティから蔑視・迫害されるといった二重の悲劇に見舞われます。暴力は女の子が社会参加することを阻み、せっかく積み上げた成果を崩す大きな要因なのです。



Q4 暴力をなくすための国際社会の取り組みは?



2000年、国連の安全保障理事会で、女性と平和、安全保障を関連づけた決議が初めて採択されました。さらに2008年以降には、紛争下における性的暴力防止への取り組みが進められ、女優のアンジェリーナ・ジョリー氏も国連難民高等弁務官特使として、安保理と各国政府の責任について声を上げています。人権に対する基本理念や規約、合意事項といった法的枠組みの整備とともに、今、その執行力が問われています。また、法律等で女性を保護するだけでなく、暴力の撲滅にもつながる紛争解決や平和構築のプロセスに、女性が積極的に関与できるようにする取り組みも進められています。



国連で開催された「早すぎる結婚」の関連イベント

Q5 暴力をなくすため地域レベルですべきことは?



世界ではいまだに、男性だけでなく女性も「女の子、女性は暴力を受けても仕方がない」と思い込んでいる場合が多くあります。家庭や社会に根強く残る「女の子、女性の地位は低いもの」という考えが暴力の原因となるのです。女の子の自立を促し、地位を向上させる具体的な取り組みとともに、すべての人が意識改革を進め、暴力を容認しない社会を作ることが重要です。そして、その実現のために重要なのが教育です。プランの調査では、教育を長く受ければ受けるほど、女の子は身体的・性的暴力を受ける危険度が低くなり、男の子は暴力を振るう割合が低くなることがわかっています。



女の子と男の子が一緒に学ぶことが大切

Q6 プランはどんな活動をしているの?



プランは女の子たちが能力を開花させ、自他ともに価値ある存在と認められるために、教育はもちろん、早すぎる結婚防止や自立につながる職業訓練プロジェクトを実施しています。また男の子と男性が、女性への暴力や本当の男らしさについて語り合うワークショップも行っています。男の子と男性の参加があって初めて、女の子の自立や地位の向上が進み、女の子に対する暴力をなくすことにつながるのです（具体的なプロジェクトについては左のコラム参照）。

ボリビアの女の子たちがプログラムに参加中



新Girl's Projectがスタート!

毎年7月にスタートする新プロジェクトで、今年は3つのGirl's Projectが始まりました。

● リベリア「女の子の教育への理解促進プロジェクト」

強力な父権社会が残る農村部のロファ郡で、女の子の学習環境を整えます。女子教育の重要性を説く意識啓発活動を行い、地域の女の子約2,000人の就学率向上と中途退学率の減少を目指します。

● ネパール「女の子の早すぎる結婚防止プロジェクト」

インドとの国境近くに位置するラウタハット郡とバンケ郡で、女の子たちの早すぎる結婚を減らすことを目指します。行政機能や早婚に関する法制度を強化し、住民約6,000人への意識啓発活動などを行います。



ネパールでプロジェクトに参加する女の子たち

● ニカラグア「女の子の起業支援プロジェクト」

観光地サン・ラファエル・デル・スール市の路上で、暴力の危険にさらされながら物売りをする16～18歳の女の子150人を支援。職業訓練などを行い、安全で収入も安定したビジネスができるようにします。



貝殻を売るニカラグアの女の子たち

「Girl's Project」は、毎月1,000円から継続的にご支援いただけます。

※今年度の「Girl's Project」に関する詳しい情報やお申し込みについては、BIAAGキャンペーンサイト内の「寄付・参加する」でご覧いただけます。

www.plan-japan.org/girl.index.html

＊1 世界ガールズ白書2007年版　＊2 ユニセフ　紛争下における性暴力に関する統計

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの一環として、2007 年から毎年発行されている「世界ガールズ白書」。8 年目となる今年のテーマは、「パワーを手に入れるための道のり：思春期の女の子のために継続的な変化を」です。女の子、女性、男の子、男性、すべての人が暮らしやすい社会を実現するには、女の子たちが本当の意味での“パワー”を手に入れ、男の子や男性とバランスよく協力し合っていく必要があります。今回は本当のパワーとは何か、そしてそれを手に入れるためには何が必要かを紹介します。

世界中で力を合わせ

今こそ女の子にパワーを！

～ 2014年世界ガールズ白書「パワーを手に入れるための道のり：思春期の女の子のために継続的な変化を」～

THE STATE OF THE WORLD'S GIRLS 2014, Pathways to Power: Creating Sustainable Change for Adolescent Girls

1 発言権、決定権がない女の子たち

BIAAG キャンペーン開始当初に比べると、初等教育などのジェンダー格差はかなり改善してきました。しかし男女間の不平等が根強く残っているのも事実です。たとえばウガンダでは、女の子は7歳までに「男性の支配に従う」との考えを教え込まれるといいます。また多くの国では家事労働の大半を女性・女の子が担っているため、社会参加ができません。これは家庭や社会での発言権や決定権、つまり本当の“パワー”をもっていないことを意味します。

2 法律よりも優先される社会規範や慣習

憲法でジェンダー平等を保障している国は、139 カ国にものぼります。しかし特に途上国では、法律よりも社会的・宗教的慣習が優先されることが多いのです。たとえば女の子の早すぎる結婚は違法なのに、その慣習が続いている、法律では男女ともに土地等を相続できるはずなのに、男性しか相続できないといった状況がまだ数多くあるのが実情。女の子の“パワー”を後押しするため、法で定められたジェンダー平等を実効できる取り組みが求められます。

3 〝パワー〟の基本はやはり質の高い教育

女の子が学校に通い続けることができれば、人生に必要な知識や技能を身につけることができ、大人になってからも選択の幅が格段に広がります。これは収入にも直結し、発言権、決定権にもつながります。また、学校のカリキュラムにジェンダー平等の考え方を盛り込めば、女の子は自分に自信が持てるようになり、男の子も正しい形で男らしさを発揮する方法を身につけることができます。こうした質の高い教育は、女の子の“パワー”を育てる基本です。

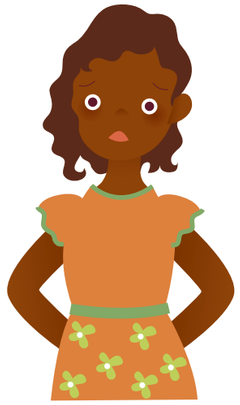
4 〝パワー〟への道を阻む暴力

女の子が“パワー”を手に入れる活動を阻むもの――その大きな要素のひとつが、男性による性的・身体的暴力です。WHO（世界保健機関）が 2013 年に発表した数字によると、世界中の女性の３割以上が男性から暴力を受けた経験があり、加害者の８割以上が家族や親密なパートナーであったといいます。こうした近しい人間から受ける暴力は、外部の人が干渉したり、法律で罰したりすることが難しく、女の子は制裁を恐れて誰にも相談できません。また暴力を振るう側も、相手が抵抗しないため、許されると思っているのです。このような状況は、何としても根絶しなければなりません。



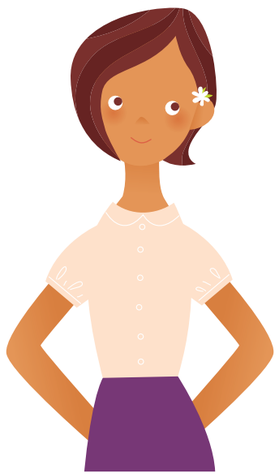
5 最新の追跡調査では女の子の意識に変化が

プランが世界９カ国で 142 人の女の子を追跡調査している「本当の選択、本当の人生」プロジェクトも８年目に突入。女の子たちは小学校に通う一方、家事労働が日常の一部になり、男女の違いについても気づき始めています。「女の子は車で遊ばないし、男の子は人形遊びはしない」「洗濯や弟の面倒を見るのは女の子だけ」といった従来の社会規範に支配されたコメントが多く聞かれましたが、中には「私は家で家事をするのに、弟はずっと遊んでいるのが嫌」など、自分の身の回りの状況に疑問を持ち、自分の考えをはっきり言える女の子もいました。これは学校教育が彼女たちによい影響を与えているためでしょう。



6 集団でのアクションが〝パワー〟を生み出す

女の子が本当の“パワー”を手に入れるために欠かせないもうひとつの活動が、同世代の男の子たち、大人、地元のリーダーたちなどを含むあらゆる人々への意識啓発です。こうした活動で成果をあげるには、集団で団結することが重要。中米で活動するある女性は、「自信は伝播する」と語ってくれました。「一緒に活動する仲間がいる」と思うと、継続して活動する力が湧き、それが確実な成果へと結びついていくのです。



7 ロールモデルとなる女性リーダーを増やせ

いま世界では、ジェンダー平等を実現するため、より多くの女性たちが高い地位、決定権のある地位に就くことが求められています。高い地位にある女性たちは女の子のロールモデルにもなり、女の子に自信と「自分にも何かできる」という希望を与えてくれます。近年では国会や地方議会で、一定の割合の議席を女性に割り当てるクオータ制度を取り入れる国も増えています。これは賛否両論のあるシステムですが、インドネシアの女性エンパワーメント省のスタッフは、次のように述べています。「政治に参加する女性が国中で差別されている以上、クオータ制度は必要なのです。何百年もの間、男性のほうが上だとみなされ、権力の座につくのもほとんどが男性だったのですから」。



2014 年世界ガールズ白書は、BIAAG キャンペーンサイトのライブラリーでご覧いただけます。
http://www.plan-japan.org/girl/library/report.html



イラスト／西島尚美

「世界の女の子を応援したい」女性たちの気持ちが、企業活動を通して広がっています

Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンの主旨に賛同し、
支援してくださる企業がふえてきました。
女性を応援する企業ならではの取り組みを２つご紹介します。

CASE 1 株式会社ポーラ

「輝く女性の生き方を応援する」理念のもとBecause I am a Girl キャンペーンを支援

株式会社ポーラは、1月に発売された美容液「サインズショット」の売り上げの一部を寄付してくださっています。宣伝部長の渡邉和子さんにお話を伺いました。



笑顔のための美容液　サインズショット

渡邉さん「サインズショット」は、２０１４年１月に新発売した美容液です。大きなしわができる原因のひとつは、実は表情。笑顔のときのほうれい線にも想像以上の負荷がかかっていて加齢によるトラブルの要因に。そこで、「サインズショット」は、しわを気にせず笑ってほしいという気持ちをこめて「笑顔のための美容液」と銘打ち、Smile Revolutionという活動を始めました。

この活動が、２０１１年に立ち上げたＣＳＲ活動であるＡＡＡ（アンチエイジングアライアンス）と結びつき、今回、プラン・ジャパンのBecause I am a Girl（ＢＩＡＡＧ）キャンペーンを支援することになりました。

――ＢＩＡＡＧキャンペーンを知ったきっかけは？

渡邉さん「サインズショット」を使うことで他の誰かも笑顔にできたらいいね、とアイディアを探していたところ、社員の一人からＢＩＡＡＧキャンペーンへの支援という案が出ました。

支援先を決める際には、透明性を重要視していますが、プラン・ジャパンは、数字で結果をきちんと示されていました。また、寄付と言うと、「助けてあげて終わり」というイメージがあるのですが、プランの最終的なゴールは、「支援しなくて済むようになる」というところに置いている、と感じました。支援地域の人たちが自分たちの力をつけることに支援をしている。その姿勢に共感し、信頼につながりました。

――ＢＩＡＡＧキャンペーンへのご支援に反響はありましたか？

渡邉さん　15万人の登録があるポーラレディからの反響が非常に高く、多くの方が賛同してくれました。身近な人を笑顔にすることも大事だけれど、それが世界の人にもつながっている。世界へ視野を広げるきっかけになったと思います。

ポーラのＣＳＲ活動であるＡＡＡでは、全国約４７００の営業所で、地域のクリーン活動や美容ボランティアなど、ポーラレディが主体となって行っている活動もあります。今年の広島の土砂災害の折にも、「自分たちにできることはないか」と営業所から声が上がり、まずお客様の安否確認からと、被害にあったポーラレディたちが行動していました。社会のために何か貢献したい、という気持ちがとても強いのです。

「ポーラのＣＳＲってなんだろう？」という話題になったとき、「私たちの仕事そのものがＣＳＲよ」と言われたことがあります。85年前の創業時から女性たちの社会での活躍の後押しをしてきたという意味ではそのとおりで、ＢＩＡＡＧキャンペーンにも通じるように思います。

CASE 2 シチズン時計株式会社

レディスブランド「CITIZEN xC（クロスシー）」からBIAAG スペシャルモデルが登場！

時計を購入することでBIAAG キャンペーンを支援することができます。


CITIZEN xC for Because I am a Girl SPECIAL MODEL

シチズン時計株式会社は、ＢＩＡＡＧキャンペーンに賛同し、２０１３年11月よりレディスブランド「ＣＩＴＩＺＥＮ xＣ（クロスシー）」の売上の一部をプラン・ジャパンに寄付し、途上国の女の子を応援しています。今年は、ＢＩＡＡＧキャンペーンの普及をさらにサポートするため、「CITIZEN xC for Because I am a Girl スペシャルモデル」を開発し、国際ガールズ・デーである２０１４年10月11日より発売しています。文字板には10月11日をモチーフに10時、11時位置にダイヤモンドを、また、「世界の女の子たちみんなが、笑顔と希望に満ちあふれた時間を過ごせるように」と願いを込めた希望の星を模したダイヤモンドを7時位置に配し、そこから希望が広がるように文字板全体に星の軌跡が描かれています。

スポンサーの疑問を解決！
気になることQ&A 2

前号からお届けしている、スポンサーシップの活動についての小さな疑問にお答えする連載。第２回は、「チャイルドが登録終了になったら、支援はどうなるの?」についてお話します。

Q チャイルドが登録終了になったら、支援も終了になってしまうのでしょうか？

プラン・スポンサーシップは、特定のチャイルドを支援するものではなく、さまざまな支援地域の問題を解決していくプロジェクトに対して、使われています。スポンサーの皆さまには、現地とのつながりを深め、支援活動の内容をより身近に感じていただくために、チャイルドをご紹介して、お手紙での交流を深めていただいています。

プランの活動は、支援地域の子どもたちを中心に、現地の人々とともにプロジェクトを実施することで、人々が自分たちで地域の問題を解決する力をつける、という手法をとっています。交流いただいているチャイルドが登録終了になっても地域での活動は続いていますので支援は終了にはなりません。よってご寄付の自動引き落としやカード決済は引き続き行われます。


チャイルドは“コミュニテイの代表”

チャイルドが登録終了になった場合は、次に交流いただくチャイルドをご紹介しています。新しいチャイルドとの交流を通じて、世界にさまざまある地域の問題を感じていただき、自分たちの地域の問題を自分たちで解決しようとするコミュニティの活動を応援いただければと思います。


ご支援は、特定のチャイルドではなく、コミュニティ全体に届けられています

チャイルドの登録終了に関連するQ&A

チャイルドは、なぜ登録終了になるのですか？

理由はさまざま 18 歳になると登録終了に

チャイルドが 18 歳になりプランの登録を外れる場合、家族が引っ越した場合、またプランが当初の目標を達成し活動地域を移動する場合などに登録終了となります。いずれの場合もまずスポンサーへお知らせし、新しいチャイルドのプロフィールをお送りします。

チャイルドが学校を辞めてしまいました。登録終了になるの？

学校に通えなくても登録終了にはなりません

プランの活動地域では、必ずしも日本のような学校制度が整っているわけではなく、また、環境や家庭のさまざまな事情から、チャイルドが学齢期になっても学校に通っていないケースもあります。チャイルドの登録には「就学すること」という条件は設けておらず、入学できなかったり、学業を続けられなくても登録終了にはなりません。

登録終了になったチャイルドと個人的に交流したい

個人的な交流はできなくなります

原則として、登録終了後はチャイルドとの交流はできなくなります。地域の向上による終了や、基準年齢に達したための卒業の場合、チャイルド本人や地域が自立していけるようになったことを意味します。プランは、より支援を必要としている地域での活動に注力していきます。まだスポンサーのいない子どもたちとの交流をお願いします。



スポンサーシップについての Q&A は、ウェブサイトの「よくある質問」コーナーにも掲載しています
お手紙やギフトなどについてのご質問は、「チャイルドとの交流について」の項目にまとめています。ぜひご活用ください。
http://www.plan-japan.org/faq/sponsor/

Information* お知らせ

寄付金の領収証明書は2015年1月下旬にお届けします

皆さまの寄付金は、確定申告により税法上の優遇措置が受けられるのをご存じですか？　プラン・ジャパンが公益財団法人に認定された2011年2月1日以降の寄付金は、「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができます。確定申告による還付金は、最大４割です。2014年1月1日～12月31日に受領したご寄付の領収証明書は、2015年1月下旬にお手元にお届けいたします。再発行はできませんので、申告時まで大切に保管してください。なお、以下の点にもご注意ください。

■ 今回発行分より領収証明書の名義を変更される方は、2014年12月25日（木）までに書面（メールまたはFAX）にてお知らせください。

■ クレジットカードやコンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社からプラン・ジャパンへ入金された日が受領日となります。また、12月のクレジット決済分は2014年の領収証明書に含まれません。

■ 寄付金控除は、年末調整で行うことはできません。

■ 一部の自治体においては、個人住民税の寄付金控除の対象となる場合もございます。詳しくはお住まいの都道府県や市区町村にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
支援者サポート部　寄付金管理担当
TEL：03-5481-6100
FAX：03-5481-6200
Mail：service@plan-japan.org

「プラン・ニュース」「年次報告書」アンケート結果のご報告

８月末までご協力をお願いしていた読者アンケートに、600人（男性24%、女性76%）を超える方からご回答をいただきました。お忙しい中ご協力くださった皆さま、誠にありがとうございました。結果を一部抜粋してご報告します。

まずレイアウトについて。「プラン・ニュース」は97%、「年次報告書」は92%の方が「読みやすい」もしくは「普通」との回答でした。「プラン・ニュース」の発行回数については、60%の方が現状の「年３回」を希望されました。一方、「年２回」と回答された方が26%、逆に「年４回」とのご意見も11%ありました。

自由記入欄には、「普段あまり意識することのない視点で途上国のことが学べ、勉強になる」との声を多くいただきました。プランの活動を広く伝える窓口として多くの情報を掲載し、そのことを評価していただいている結果と受け止めていますが、一方でご高齢の方からは、「字が小さく読みづらい」とのご意見もいただきました。情報量と文字の大きさのバランスについては、今後の課題として検討していきたいと考えています。皆さまからいただいたご意見・ご感想はウェブサイトでもご紹介していますので、そちらも是非ご覧ください。

■ アンケート結果報告はこちら
http://www.plan-japan.org/supporter/

※なお、アンケート用紙の最後に、「今後のプラン・ニュース／年次報告書は郵送不要」という方のために、お名前の記入欄を設けましたが、これを「署名欄」と間違えて記入したと思われるケースがありました。このため、郵送不要なのか、あるいは単なる署名なのか判断が難しいものは、郵送停止の手続きを行っておりません。「郵送を停止したはずなのに、まだ冊子が届く」という方は、大変恐縮ですが、再度お知らせくださいますようお願いいたします。連絡先等については、下のコラムをご参照ください。

「プラン・ニュース」「年次報告書」および各種報告はウェブサイトでもご覧いただけます！

「プラン・ニュース」と「年次報告書」は、ウェブサイト上でもお読みいただけます。“郵送不要”という方は、支援者サポート部までご連絡ください。ただし「プラン・ニュース」のみ、もしくは「年次報告書」のみ郵送というご対応はできませんので、何とぞご了承ください。なお、「年次報告書」と同ページで「プラン・マンスリー・サポーター活動報告」と「プラン一般プロジェクト活動報告」もご覧いただけます。

【ご連絡・お問い合わせ先】
支援者サポート部
TEL：03-5481-6100
Mail：service@plan-japan.org

ウェブサイト版「プラン・ニュース」はこちら
http://www.plan-japan.org/libraries/news/





ウェブサイト版「年次報告書」と「プラン・マンスリー・サポーター活動報告」「プラン一般プロジェクト活動報告」はこちら
http://www.plan-japan.org/report/

捨てないで！ 不要なはがきで子どもたちを支援

お手元に、書き間違えたり余ったりしているはがきはありませんか？　プランの活動を応援してくださっている有志のグループに、不要な「郵便はがき」（未送のもの）を送っていただくと、途上国の子どもたちの教育や栄養、女の子への支援などに生まれ変わります。前回は４つの学生ボランティアグループで２万4,119枚のはがきを集め、約90万円の寄付になりました。今年も現在、６グループが活動中です。これから年賀状などはがきを書く機会が増える時期。皆さまも是非、ご協力をお願いします。なお、はがきの送付先、支援プロジェクトについては、プラン・ジャパンのウェブサイト、または以下までお問い合わせください。はがきの受付期間は、2014年12月～2015年1月末を予定しています。

【お問い合わせ先】
ファンドレイジング部
TEL：03-5481-7100
Mail：hello@plan-japan.org



書き損じはがき、お待ちしています！



お送りいただいた不要なはがきは、「プラン一般プロジェクト」への支援に活用されます

Message board* 伝言板

各地の支援者の会からの伝言板

プラン広島の会「お手紙書き会」f

■ 日時：11月15日（土）、12月20日（土）、2015年1月17日（土）　14:00 ～16:00
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース２Fまたは３F（広島市中区袋町６-36）
■ 内容：チャイルドへの手紙書き。チャイルドと交流されていない場合でも大丈夫。プラン広島の会が交流しているチャイルドへ一緒にお手紙を書きましょう。
■ 参加費：無料、申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：Naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン広島の会「まちづくり市民交流フェスタ」参加 f

■ 日時：12月13日（土）、14日（日）
11:00 ～ 17:00（14日は15:00まで）
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市中区袋町６-36）
■ 内容：プラン・ジャパンの活動内容を紹介するPRブースを出展します。
■ 参加費：無料、申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：Naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン札幌の会「国際協力フェスタ」参加

■ 日時：12月13日（土）
10:30 ～ 16:30（予定）
■ 会場：札幌地下歩行空間チカホ 北３条交差点広場（西）
■ 内容：プラン・ジャパンの活動内容を紹介するPRブースを出展。パネル展示、スクリーンでの映像上映等を予定しています。
■ 参加費：無料、申込不要
■ 連絡先：松澤
Mail：ojigichan@jcom.home.ne.jp

プラン山陰の会 倉吉市で初の交流会 f

■ 日時：12月14日（日）14：00～16：00
■ 会場：倉吉未来中心　セミナールーム９A（鳥取県倉吉市駄経寺町212-5、倉吉パークスクエア内）
■ 内容：倉吉市で初めて会を催します。和室で、ゆったりと茶話会をしながら、カード作りや手紙についての情報交換や、チャイルドの支援などについてお話をしましょう。
■ 会費：500円、申込不要
■ 連絡先：岡川
Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp

「プラン・ニュース」No.98は2015年4月にお届け予定！

「プラン・ニュース」次号の発行は、2015年４月下旬の予定です。また2015年１月中旬には、2014年度の「年次報告書」をお届けする予定です。どうぞお楽しみに。

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会についてはプラン・ジャパンウェブサイトから各会のページにリンク
トップページ→プラン支援者の方へ→プラン支援者の会　www.plan-japan.org/supporter/plankai/
※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください。

コミュニティ訪問レポート

コロンビア Colombia

10年以上も交流を続けてきたチャイルドに本当に会えてお互い大感激でした！



お家に風船まで飾って大歓迎してくれました！

子どもの頃から海外や途上国支援に興味を持っていたという浅田友子さんは、高校生のときに新聞広告でプランを知り、社会人になってスポンサーに登録。2003年12月から、南米コロンビアの女の子と交流を続けてきました。そして、チャイルドがプランを卒業する直前の2014年6月、かねてより念願だったコミュニティ訪問を実現させました。

コロンビアの女の子、イングリスとの交流が始まったのは、彼女が7歳のとき。毎年少なくとも3回は手紙を書き、彼女からも手紙やかわいらしい絵が送られてきて、いつも「いつか彼女に会いに行きたい」と思っていました。

日本から遠い南米を“冒険旅行”することは、私の夢のひとつでもありましたが、まだまだ危険が多いといわれるコロンビアを訪れるにはそれなりの勇気が必要で、とうとう彼女がプランを卒業する年を迎えてしまいました。そこで「最後のチャンス！」とばかりにコミュニティ訪問を決意。2014年6月18日に日本を出発しました。

まずアメリカのフロリダに立ち寄り、ワーキングホリデーでカナダに暮らしていたときのエクアドル人ルームメイトと再会。時差調整を兼ねた訪問を楽しんだ後、コロンビアのカルタヘナへと向かいました。

6月23日、プラン職員の方たちがホテルまで迎えに来てくださり、イングリスが暮らすコミュニティへ。30分ほどのドライブで到着すると、そこにはイングリスと家族、親戚、友人などが大勢集まり、スペイン語で「コロンビアへようこそ！」と書かれた横断幕などで大歓迎してくれました。イングリスとも感動の対面！　お土産を手渡し、私が「本当に会えたなんて信じられない」と言えば、彼女も「夢なら覚めないで」と言ってくれて、ちょっぴり“うるっ”ときてしまいました。

その後はイングリスが通う学校などを歩いて見学していたのですが、彼女が「農園を見せてあげたい」と言い出し、急遽車で10分ほど移動。フラミンゴなどの動物を見たり、マンゴーや木の実をもいで食べたりして楽しく過ごしました。私が「日本ではマンゴーはとっても高いのよ」と言うと、みんながマンゴーをたくさんプレゼントしてくれたのも素敵な思い出です。

イングリスの家に戻ると、彼女と友人が音楽をかけて踊り始め、私まで引っ張り出されダンスパーティーに！　それから、心づくしの家庭料理でランチもごちそうになりました。最後にはイングリスから、“コロンビア”と書かれたマフラーをプレゼントされて大感激。実は訪問日の翌日は、サッカーのワールドカップで日本対コロンビアの試合が行われる日だったのです。

イングリスは今後、プランの支援で職業訓練を受ける予定で、「将来はファッションデザイナーになりたい」と夢を語ってくれました。私は彼女が卒業したら、またどこかの国の女の子と交流を始めたいと思っています。そしてまた必ず、コミュニティ訪問をしたいです。





交流がスタートした頃のイングリス

もうすぐ18歳になるイングリスとのツーショット。まるで同世代の友人同士みたい?!

Plan news
2014 Autumn No.97

公益財団法人プラン・ジャパン　www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100　FAX 03-5481-6200　service@plan-japan.org

Plan プラン・ジャパン

表紙写真 / エジプトの女の子